



多くの人に支えられ
望む決意のシーズン

横浜ベイスターズ 背番号 26
井手 正太郎 選手

Ide Syoutarou (野尻・紙屋出身)

昭和58年生まれ。28歳。2002年にドラフト8順目でダイエーホークス(当時)に入団。2010年4月に横浜ベイスターズに移籍し、現在に至る。

(C) 横浜ベイスターズ

風が強く、肌寒い1月12日。井手正太郎選手は宮崎市のアイビースタジアムにいた。春のキャンプに向けて、トレーニングを行うためだ。野球選手として、実力だけでなく、その人柄も尊敬する福岡ソフトバンクホークスの川崎宗則選手をはじめ、多くの選手とじっくり練習に取り組む。井手選手の新シーズンは既に始まっていた。



【写真】自主トレーニングでは精力的に体を動かす。

井手正太郎選手は昭和58年生まれ。紙屋小学校に入学後、3年生から野球を始めた。将来の夢は、もちろんプロ野球選手。決して強いチームではなかったが、夢は変わらなかった。そして、高校の進学先を決める時期。井手選手は、レベルの高い高校で野球がしたい

と日南学園高校を志望。できるわけがないと反対する声もあったが「何か自信があった」と入学を決めた。

日南学園高校野球部では、関西からも選手が集まるなど、一番人数が多い世代だった。同級生には、寺原隼人選手もいた。そんな中でも井手選手は、激しい競争と厳しい練習に耐え、メキメキと成長する。1年生の秋にはレギュラーを獲得した。

3年生になり、迎えた最後の夏。甲子園で井手選手が躍動する。「最初は緊張したけど、1本ヒットを打って楽になった」と当時を振り返る。3回戦までに12打数10安打の大暴れ。チームのベスト8進出の原動力となった。

この活躍もあり、井手選手は、福岡ダイエーホークス(当時)にドラフト8巡目で指名される。夢を叶え



【写真】入団会見で抱負を語る井手選手。(2010年4月17日)

た瞬間だった。

プロになって3年目。開幕スタメンに抜擢された。しかし、その後はケガで戦列を離れるなど苦しいこともあった。「2度目のケガの時は、かなり落ち込んだ。このまま終わるのではと思う時もあった」と苦しかった時を語る。しかし、そのたびに両親や選手、ファンやスタッフの励ましで這い上がってきた。

昨年4月、井手選手は横浜ベイスターズに移籍した。そして迎えた5月4日。横浜ベイスターズは広島東洋カープとホームで対

戦した。試合はもつれる展開で同点に。横浜は9回裏に1死満塁とサヨナラのチャンスを迎える。ここで打席に立ったのは井手正太郎選手。内角低めの変化球を振り抜いた。鋭い打球が三塁線を抜ける。サヨナラヒットだ。ガッツポーズで喜びを爆発させ、一塁ベースを回る。ベンチから飛び出した選手達にもみくちゃにされた。最高の瞬間だった。ヒーローインタビューでは「てげうれしい」と満面の笑み。移籍したばかりで打った殊勲打に、ようやくチームの一員になれた気がした試合だった。



【写真】サヨナラヒットを放ち、喜びとともにガッツポーズ。(2010年5月4日、横浜スタジアム)

その後、ケガもあり、思うような成績でシーズンを終えることはできなかった。しかし「体のケアなどは勉強できた。秋のキャンプでは打撃でいい感覚をつかめた。収穫が多かった」と振り返る。そしてそれは今シーズンにつながる。「レギュラーを勝ち取り、規定打席に到達すること。そしてチームがクライマックスステージに進出できるよう貢献したい」と力強く今年の抱負を語る。

プロ10年目を迎えた井手選手。今年の活躍に期待だ。